

目次

目次	i
序 赤羽学	iii
凡 例	vii
序 章 一 研究主題と研究史を踏まえて	1
一 文明批評と金銭	4
二 個人主義と金銭	16
三 資本主義と金銭	22
第一章 漱石の小説における金銭の表現	42
一 作品における金銭の表現を読む	43
二 高等遊民の経済的要素	66
三 金銭にかかわる主題性	70
第二章 『吾輩は猫である』論—資本主義への批判と金銭の力	76
一 金銭による構成	78
二 苦沙弥の逆上	82
三 金銭的価値の問題	89
第三章 『それから』論—高等遊民における二百円の意味	96
一 代助にとっての職業	97

二	金銭と自然の愛	101
三	代助の「愉快」と「不愉快」	109
四	金銭に絡む政略結婚	114
第四章	『それから』論—登場人物の金銭観と高等遊民 の転落	125
一	金銭による人物造形	128
二	明治四十年代における社会的な不安	135
三	日糖事件と物質的な不安	143
第五章	『道草』論—金銭によって繋がる他者と断ち切 られる他者	170
一	金銭によって繋がる他者	171
二	百円によって断ち切られる他者	177
三	健三の心の認識	182
終章	189
年譜	196
参考文献一覧	226
初出一覧	237
あとがき	239
索引	243